
ARCANGELO

波奈

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ARCANGELO

【著者名】

波奈

【あらすじ】

それなりにモテ、平凡な生活を送っていた俊輔は謎の男（？）ユキと出逢い運命が変わっていく。

1、マイシルの玉達（墨書き）

初投稿作品になつますので、至らぬところがあると思いますが
ご了承下さい。

1、アイツとの出逢い

「……ツ……ー?」

風になびく短い茶髪。

細くスラリと伸びた長い手足。

パンクなんだかロツクなんだか俺にはわからんけどセンスは良い。
表情は長めの前髪に隠れて読み取れないが、男ってのはわかる…
わかるんだけど…

あ、あれは何なんだ? 人なのか? いやでも人間はあんなキラキラ輝
かないよな… うん… ジャ あ未知の発光体?

…… つまさか幽霊!?

や、んなことどーでもいい…… 何で俺のバイクを見つめてんだよ!?

帰りたくてもバイクを置いてなんて帰れないし…

あ~くそつ閑わりたくないが仕方ない。

「お~いっ お前退けよ!」

「はあ?」

何今 の ドス の 利いた 声!?

怖づめちやめちや怖い。

「すんません…遅いでもらえますか？僕のバイクなんで…乗れないんで。」

手に出てせつたらひざひといひちを向いた幽靈（仮）。

おつ男前だ。
まつ俺ほどじやないけど…ふふん。

「あ、これお前のなん？ なあ乗ってくれんかな？ 僕バイク好きなんよ。」

「えつ

圖々しきい

絶対B型だコイツ！

「お願ひ！！乗りたい！！お願ひします。」

本当は嫌だけど…

「コイツキレたら布そうじ

怨靈になられても困るしな...

「後ろで良いなら……」

「アーティスト」

満面の笑みで子供の様に飛び回つて喜ぶ男を見てたらしつちまでつられて笑つちまつた。

「ひやつば」

「うっさい！ 黙つて乗つてろーー！」

少し走つたらすぐに戻りつと思つたが海が見たいと騒いだヤツのせいで近くの海岸までやつてきた。

「お前さあ…」

ん？

「名前は？」

「あ～俺？」

「お前以外に誰が居るんだよ…」

「あ…アホだ。

絶対脳味噌ちっさい。

「ん～皆からはコキつて呼ばれとるよ。」

「コキ？」

「そつコキ。お前は？」

「俺は俊輔。ショウンつて呼ばれてる。」

「ふ～んじゃあハルな。」

人の話聞いてなかつたんか？

ハルつて…ハルつて…

俺ハルじゃねえし…！

「なんで？」

「春つてショウンつて読むからに決まつてんだろーーー。」

アホ通り越して頭オカシイよコイツ。でもまあ…

「む～まあいいか…」

何かおもしろいし楽しい。

人間じゃないことは分かってるけど

いい友達が出来た気分だった。

「ハルつ

「ん?

「お前で良かつた……俺嬉しい」

「はあ?

「ん?なんでもない」

初夏の風を身に纏い楽しそうに砂浜を駆けるコキの背中を見つめ首を傾げるしかなかった。

2、衝突！？

ユキとの出逢いから1週間。

今ヤツは俺の家に住みついて……いや住み憑いている。

俺が学生で独り暮らしからって……ありえん……何勝手に住み憑いてんだよ~コイツ。

でもかわりに食事の用意をしてくれてるから文句は言えないんだけど……弁当まで作って貰ってるし。

一緒に過ごしてこむつむちにユキのオムライスが絶品ってこと以外にわかつたことがある。

ユキは俺以外の人間には見えない。

「お前で良かつた……」

いつかのユキの言葉が蘇る。

俺で良かった？

どうじうことなんだ?他人に見えないってのも引っ掛かるし……

……わからん。
でも……何か……

「ハルつ危ないつ……！」

「ほえ?……つでええ?」

前から迫つてくるトラック。

背中で騒ぐユキ。

あつそだ俺……バイクで走つてるとこだつたんだ……。

「ぶつぶつかる……絶対ぶつかる」

「曲がれ曲がれって」

「曲がつたら別の車とぶつかるだろ……あつかへん

「だああ……」

次にくる衝撃にギュッと目を閉じた……

鼓膜を破る程のクラクションと破壊音。

何故か痛くなくて
これが死なんだと勝手に思い込んだ。

俺の人生なんも良いことなかつたな…なんて思つたりして。

ユキはどうなつたんだろ…アイツは死神だつたんかな?

「ハルフ…」
あ～まだ俺にとり憑いてるんだな。

「ハル…ツ…路上で寝るな…」
「えつ…え…あつ生きてるー?」

「生きてるに決まってるだろー?」

「カツと笑うユキを見てホツとした。

そしたら急に……泣きそうになつた……

「ユキ」

「何？」

「怖かつた……」

ホントに怖かつた……
ちびるかと思つた。

「……もう大丈夫だから落ち着き……バイクは……お釈迦だけど……ま
あしゃーないよなーー！」

大きい手でワ・シャ・ワ・シャと頭を撫でられる。

そうだ助かつたんならバイクの一一台や一一台壊れたつて……

……壊れた？

「はあ！？バイク壊れたんかつーー！」

「しゃーないやんお前助けんので精一杯だつたんだからーー助かつ

ただけでも有り難いと思え！－！くそ野郎

「あのバイクいくらしたと思つてんだよ…… つてお前が助けてくれたん？」

お～見掛けによらずいい奴じゃねえか！！

友情つて素晴らしいね

「そりゃ こんな格好だけど

一応天使だし？」

「……天……使？」

困つた様に微笑むユキの顔を見つめ硬直した。

天使って……

空想上のもんだろ?

あつなんだろ眩暈がする……

「ハル？ハルつ！？寝るのはベッドと授業中だけにしりつて……！」

3、俺の力口

ハルに言つた様に俺は正真正銘天使。

幼い頃から背中に翼が生えてて、ごく普通の天使…のはずだった…

ただ少し周りの天使より変わつていただけ…

それが原因で…父さんに殺されかけ母さんに捨てられて…。

天界で居場所も行き場もなくなつて地上に降りた…まあ孤児天使つ

てとこか…地上に降りてからは人間が好きだつたから…見てるだけで楽しかつた…

いろいろ大変なことは多かつたけど…

幼い孤児天使は悪魔や堕天使に狙われ易い。

だから…まあこの拳と声で切り抜けて来たわけだけど…

あれはまだ俺が地上に降りたばかりでガキだつた頃のこと。

あの時ばかりはもう駄目だとおもつた。いつもより位の高い悪魔に狙われ追い詰められていた。

『気配を消した悪魔に徐々に生氣を奪っていく恐怖。

聞こえるのは自分の尋常じやない荒い呼吸と鼓動だけ。

背後から殺氣を感じた……

そんな絶体絶命の時に神様に出会った。

神様は死にかけの俺を助けて下さり、その上いろいろな話もして下さった。

『天使には保護すべき運命の人間が居る』

その人間には天使の姿が見え声が聞こえる……早く見つけて幸せになりなさい……と神様はおっしゃられた。

その話を聞いて俺はすぐ元ソイツを探し……そしてハルに出逢った……

嬉しかった。

ホントに嬉しかった……

初めて俺に偏見を持たない奴と話せたから……

アイツは覚えとらんと想ひナビ…

オムライス作つてやつた時に美味しい美味しい騒ぎながら言つてくれた

「持つべき物は友達だな」

つて台詞に俺の命賭けてでも守つてやりたいと想つた。

だからアイツは生きてても死んでとにかく口癖の様に言つてるけど……

寿命まで、しつかり生きて貰ひーーー！

精神的な苦痛は変わつてやれんけど……

肉体的には変わつてやれるからなー！

死神なんて敵じゃない。

友情を知つた孤児天使の意地見せたるーー！

この拳で…

「なあユキ……お前……生前からそんなにアホだつたんか？」

「やつ俺まだ一度も死んでないし……」

「ウソーン

「嘘じやねえつてーー！」

「俺は天使だつて……言いたいのか？」

「事実だし……」

「じゃあ……証拠見せて？」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6253a/>

ARCANGELO

2010年10月10日06時32分発行